

平成 25 年 8 月の熱中症による救急搬送の状況

平成 25 年 8 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）
を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成 25 年 8 月の全国における熱中症による救急搬送人員は 27,632 人でした。これは当庁の調査開始（平成 20 年）以来、平成 22 年 8 月の 28,448 人に次いで多い搬送者数でした。また、平成 25 年 6 月から 8 月の合計搬送者数は 55,596 人で、調査を 6 月から開始した平成 22 年以降、最多の搬送者数となっています。
- 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65 歳以上）が 13,034 人と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）11,492 人、少年（7 歳以上 18 歳未満）2,917 人、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）188 人の順となっています。
- 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 17,219 人、次いで中等症 9,424 人、重症 761 人、死亡 57 人の順となっています。また、平成 25 年 6 月から 8 月の初診時における死亡は 88 名であり、これまで最多であった平成 22 年 6 月から 8 月の死亡 161 名に比べ大幅に減少しています。
- 都道府県別人口 10 万人当たりの熱中症搬送人員は、高知県が最も多く 38.20 人であり、次いで佐賀県 35.07 人、香川県 34.54 人の順となっています。
- 消防庁では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記の HP で熱中症に関する情報及び毎週、熱中症による救急搬送状況の速報値を提供しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

【資料】

[平成25年8月の熱中症による救急搬送状況](#)



（連絡先）

消防庁救急企画室

担当：日野原・伊藤・大迫

電 話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

平成 25 年 8 月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成25年8月中の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

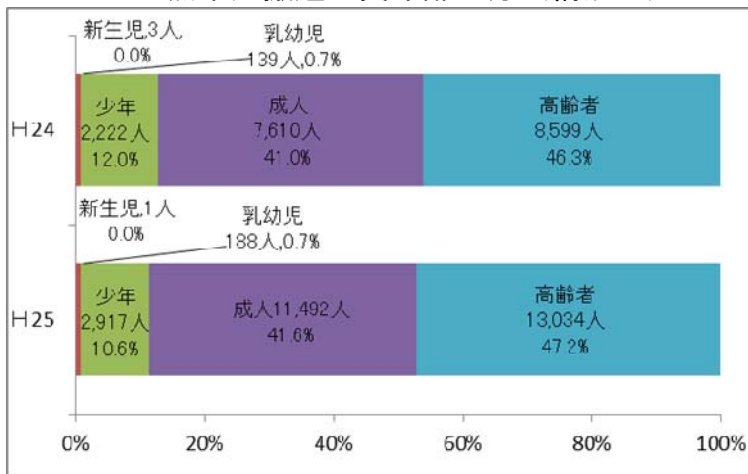
平成 25 年 8 月の全国における熱中症による救急搬送人員は 27,632 人でした。

これは、平成 24 年 8 月の熱中症による救急搬送人員 18,573 人と比べて、1.5 倍となっています。（集計 1、集計 2、集計 3 参照）

2 内訳

(1) 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65 歳以上）が 13,034 人（47.2%）と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）11,492 人（41.6%）、少年（7 歳以上 18 歳未満）2,917 人（10.6%）、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）188 人（0.7%）の順となっています。（集計 1 参照）

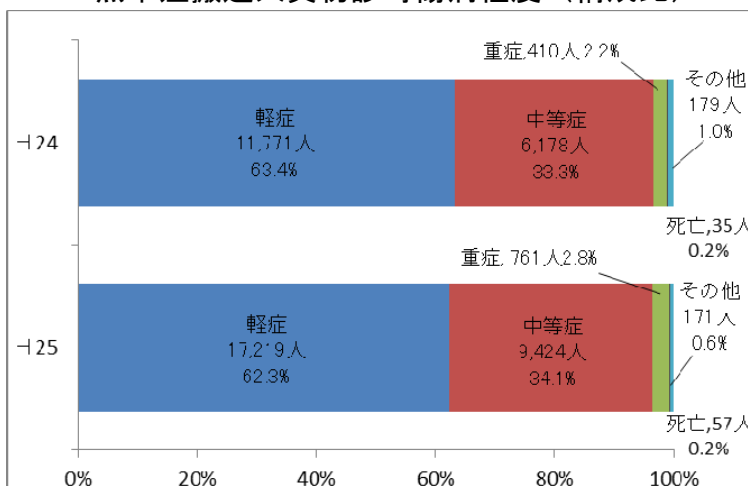
熱中症搬送人員年齢区分（構成比）



新生児：生後 28 日未満の者
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者
 少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者
 成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者
 高齢者：満 65 歳以上の者

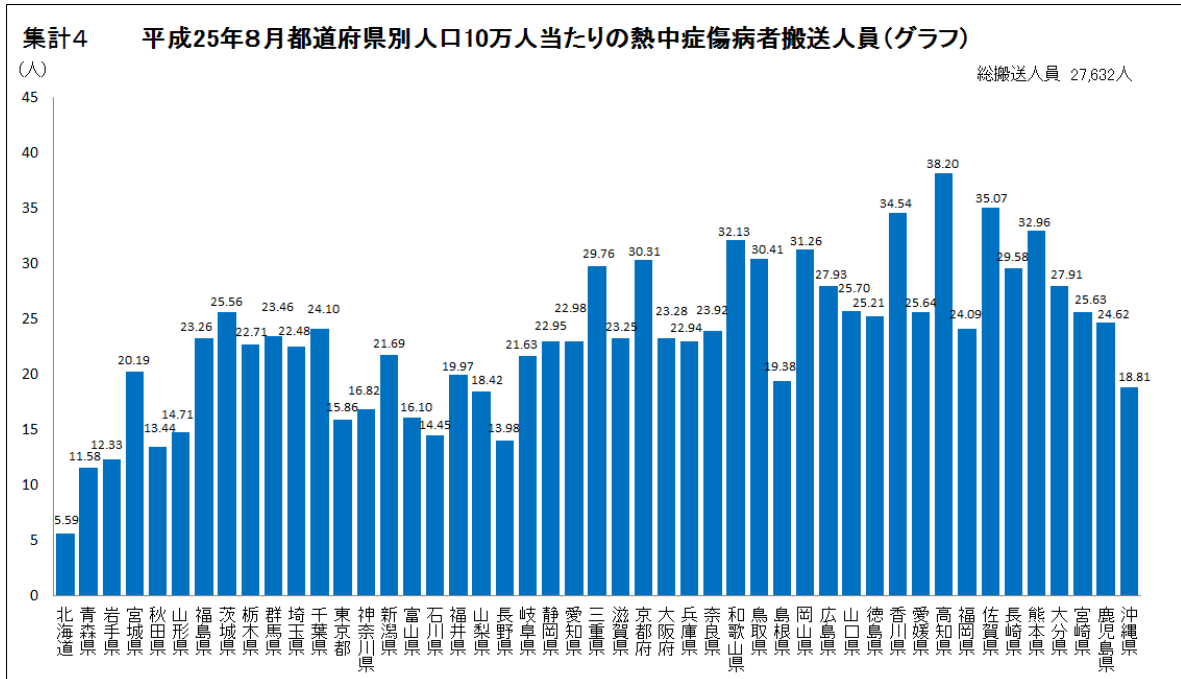
(2) 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 17,219 人（62.3%）、次いで中等症 9,424 人（34.1%）、重症 761 人（2.8%）、死亡 57 人（0.2%）の順となっています。（集計 1 参照）

熱中症搬送人員初診時傷病程度（構成比）



軽 症：入院を必要としないもの
 中 等 症：重症または軽症以外のもの
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

(3) 都道府県別人口 10 万人当たりの熱中症搬送人員は、高知県が最も多く 38.20 人であり、次いで佐賀県 35.07 人、香川県 34.54 人の順となっています。(集計 4 参照)



3 その他

熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。

消防庁では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症に関する情報及び毎週、熱中症による救急搬送状況の速報値を提供しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

参考 (気象庁「8月の天候」より)

月を通じて太平洋高気圧が日本の南海上から西日本付近にかけて強かったため、東・西日本、沖縄・奄美では晴れて暑い日が多く、月平均気温はかなり高かった。北日本は、気圧の谷や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かったが、南からの暖かい空気が入りやすく、月平均気温は高かった。8月上旬後半から8月中旬は、日本付近で太平洋高気圧の勢力が特に強まり、東・西日本中心に、晴れて厳しい暑さが続いた。7日から22日にかけて、連日全国の100地点以上のアメダス観測所(集計地点数927)で猛暑日となり、11日は297地点で猛暑日となった。12日には、江川崎(高知県四万十市)で日最高気温が41.0℃となり歴代全国1位を更新した。8月上旬は沖縄・奄美で、8月中旬の平均気温は北・東・西日本で、それぞれの旬として1961年の統計開始以来第1位の高温となった。